



大きな希望を胸に

入園・入学の春



4月4日、村内保育園で入園式が行われ、今年度は3つの保育園に37人の子どもたちが新たに入園しました。

お父さん、お母さんの膝に抱っこされ入園式に臨んだ子どもたちを、在園児が踊りで出迎え、年長児からは「保育園にはすべり台や積み木があります。おいしいおやつもあります。一緒に遊びましょう。明日から元気に来てください」とかわいらしい歓迎の言葉がありました。



下関保育園入園式



関川小学校入学式

桜の開花が待ち遠しい4月6日、関川小学校で入学式が行われ、真新しいランドセルを担いだ44人の新入生が入学しました。

6年生から「皆さんが来るのを楽しみに待っていました。これからは私たちと一緒に登校し、仲良く元気に過ごしましょう」と歓迎された新入生。この日は保育園を卒園してから10日目。少したくましくなった新入生44人の学校生活がスタートしました。

また、この日は関川中学校でも入学式が行われ、少し大きめの制服に身を包んだ47人の新入生が入学しました。新入生を代表して佐久間夕穂さん（下関）が「部活動にうちこんで中学校生活を楽しみたい。早く立派な関川中の一員となるよつ頑張ります」と力強く誓いの言葉を述べました。

これから始まる中学校での3年間。一人ひとりの成長が楽しみです。



関川中学校入学式

春の風を感じながら  
歩いて健康づくり  
～第4回村民ウォーキング～



歩ききつかけづくりと健康づくりを目的に、4月21日、22日の2日間にわたって、村民ウォーキングが開催されました。これは村の主催で行われたもので、今回で4回目を迎えました。

21日は、ふれあいど〜むをスタートし、土手を歩き、温泉橋を渡り、湯沢観音公園を折り返し地点とする約3.5kmのコースで、村内外から約30人の方が参加。晴天に恵まれ、それぞれのペースで会話や景色を楽しみながら歩き、心地よい汗を流

しました。

胎内市から家族5人で参加した飛鳥武さんは「初めて参加しましたが、関川村は自然が多くて、人も良くて素晴らしいところだと思います。子どもたちと一緒に参加したのでちょうどいい距離ですね」と春の関川路を満喫していました。

折り返し地点の湯沢観音公園では、淡い薄紫色をしたかたくりの花の群生が参加者を出迎え、穏やかな春の訪れに参加者は癒されていました。

## 災害派遣からちよづご一年 被災地支援に宮城県から感謝状



このたび、東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県から村へ感謝状が贈られました。

これは、被災された方々及び被災地のために支援を行い、復旧・復興に貢献したとして感謝状が贈られたもの。

東日本大震災の発生から2か月経った昨年5月、被災地である宮城県岩沼市へ村職員を2人ずつ、1週間交代で3週間にわたり派遣しました。現地では、見舞金や災害甲意金など申請書

類のチェックやデータの入力業務に従事。また、仙台市若林区へ保健師と看護師を3日間派遣し、避難所で健康相談などの活動を行うなど、村からは10人の職員が被災地での支援活動を行ってきました。

あれから1年が過ぎ、被災地では震災前の生活を取り戻そうと、一歩ずつ復興への道のりを歩んでいます。宮城県をはじめ、福島県や岩手県など被災地の日も早い復興そしてさらなる発展を望んでいます。

例年より少ないといってもこれだけのゴミが集まりました。(橋場地内)

## 「日本一の清流」を守ろう！ クリーン作戦に大勢の村民が参加

4月15日、この日は早朝から村内一斉クリーン作戦、その後、荒川クリーン作戦が行われ、多くの村民の方に参加していただきました。

村内一斉クリーン作戦では、朝早くから地域の方たちがゴミ袋を片手に、各集落内を歩



き、空き缶や空き瓶などを回収しました。

参加した男性は「ゴミの量は例年より少ない気がします。でも空き缶は多いですね。いつもなら今年の倍ぐらいのゴミは出ます」と話していました。

昨年、2年ぶりに水質日本一に返り咲いた「清流荒川」。その荒川の美しさを守ろうと恒例のクリーン作戦が行われ、スポーツ少年団員や緑の少年団員、中学生、保護者など260人が参加しました。

自主的に参加したという関川中柔道部の近光さん(3年・辰田新)は「今回は自分が部員に声をかけ参加しました。きれいにできるといっのは気分が良いです。みんなで協力して清流日本一を守っていただけらと思っています。来年以降も後輩には続けてほしい」とゴミ拾いに励んでいました。

約1時間にわたって行われた荒川クリーン作戦。短い時間にもかかわらず、スポーツ公園周辺からはたくさんのごみ、空き缶、鉄くずなどが回収されました。



荒川クリーン作戦で回収されたゴミ。中には自転車の不法投棄もありました。